

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名

栃木県

受託団体名

栃木県教育委員会(とちぎ広域スポーツセンター)

実践テーマ

子どものスポーツ活動の充実

～スポーツ好きな子どもを育成するための地域と学校が連携した取り組み～

【テーマ設定の理由】

子どもの体力低下に歯止めをかけるために、総合型地域スポーツクラブを中心に学校と地域が連携し、子どもたちが仲間と一緒にレベルに応じた多種目にわたってスポーツを楽しめる環境を提供することで、スポーツ好きの子どもを育成し体力の向上を図る事業とする。

実践クラブ評価委員会

藤井 和彦(白鷗大学准教授)

香山 孝之(栃木県体育協会生涯スポーツ課長)

枝 俊男(栃木県レクリエーション協会常務理事)

手塚 俊美(栃木県体育指導委員協議会副会長)

小島 靖宏(栃木県小学校教育研究会体育部会長)

課題解決のために連携をとった機関・団体

■宇都宮大学

■河内教育事務所

■宇都宮市教育委員会

■宇都宮市小学校長会

■宇都宮市立泉が丘小学校

■宇都宮市立今泉小学校

■宇都宮市立泉が丘中学校

■宇都宮市PTA連合会

【上記機関・団体と連携をとった効果】

地域の小学生及び地域住民に啓発リーフレットを配布し、地域住民をはじめとした子どもや保護者に対し、子どもの体力の低下への問題提起やクラブの実践する事業を紹介することで、子どものスポーツに対する意識の高揚が図られた。

実践クラブ名

友遊いずみクラブ

【クラブ概要】

・設立年月日 平成 16 年 4 月 16 日 設立

・クラブ所在地 〒320-9952 栃木県宇都宮市泉が丘7-12-14

・クラブの特色 地域の住民が力を合わせて、次世代を担う子どもたちを育てることや地域住民が1週間に1度は健康づくりに親しむことを目標に設立されたクラブである。
クラブは自主運営、受益者負担、クラブの理念の共有の3つの柱によって成り立っている。特徴としては、①複数の種目を用意。②年齢、興味、関心、体力、技能レベルなどに応じた活動。③活動拠点となるスポーツ施設で定期的・継続的に活動。④質の高い指導者による個々のスポーツニーズに応じた指導。⑤文化的活動の実施。などがあげられる。

理念は、「健康(Health)」であり、スポーツ・レクリエーション活動、文化・芸術活動、食による健康づくりなど、多彩な活動を通して地域密着度の高いクラブを目指している。

・クラブマネジャーの活動状況 非常勤(月額100,000円)

・会員数(H21.3.1現在) 1400 人 ・定期活動種目数 34 種目

・会費の種類と金額 ●大人4,800円/年 ●子ども2,400円/年 ●親子10,000円/年

・平成21年度総予算額 9,240,324 円

実践プロジェクト①

子どもスポーツスクール

◆プロジェクトのねらい

地域が主体的に支援をしながら学校におけるスポーツ活動の場づくりがなされることを考えていく。普段あまりスポーツに親しんでいない小学生を含めた多くの子どもたちが、何らかのスポーツに触れることにより、スポーツ好きの子どもの育成と体力の向上を図る。

◆実施概要

期間 5月～1月(月曜～土曜の週6回)

種目 バドミントン、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、フットサル、ソフトテニス、ミニバスケットボール

指導者 地域の指導者・宇都宮大学生

内容 身近にスポーツに親しめる環境づくりの一環として「子どもスポーツスクール」を開催し「楽しむスポーツの日常化」の定着を図った。

◆参加者数 延べ8,187名(実施回数:186回)

◆活動の様子



◆評価

「スポーツ好きな子どもを育成するために地域と学校が連携した取り組みについて」のメイン事業として約10ヶ月間で186回のスクールを実施し、継続的に子どもたちにスポーツを提供できた。

泉が丘小学校全児童の参加率は約39.3%にまで達し、学校において「スポーツのことが話題になった」「行動が活発になった」などスポーツの理解・楽しさの理解ができた子どもたちが増え、90%以上の参加者が「参加して楽しかった」「これからも続けたい」と回答した。子どもたちのスポーツの「場」として十分に機能し定着した。

実践プロジェクト②

研修事業:研修会

◆プロジェクトのねらい

指導者や保護者をはじめ地域の住民を対象に、研修会を実施することにより、スポーツと栄養に対する意識の高揚を促すとともに、子どもたちの体を作る食事についての指導の重要性を理解する。

◆実施概要

日時 7月2日(木)19:00～21:00

講師 湯澤 敏子 宇都宮文星短期大学 管理栄養士

内容 「食物が子どもをつくる」子どもたちの心や体を成長させる上で今必要な栄養とは何か。進化する食材をどう子どもたちに与えるか考える。

◆参加者数 15人(保護者、指導者、地域住民)

◆活動の様子



◆評価

子どもと大人の食の違いや、子どものスポーツ活動の中で「食べることは生きること」「物を知り選ぶ力を身につけること」「体のサインを見逃さないこと」に関する内容で、参加者には好評であった。時間等の問題で広報が十分ではなく、参加者が少なかったことが残念ではあったが食べることの奥深さを再確認できた。

実践プロジェクト③

交流大会：子どもおもしろ広場(全4回)

◆プロジェクトのねらい

児童・保護者・先生など全ての地域住民を対象にスポーツ交流大会を行うことで、多世代の交流を促し、地域住民が泉が丘地区の子どもたちへの関心を高めることで活力ある地域づくりの推進と理解を深める。

◆実施概要

日時 第1回 5月23日 9:00～12:00、第2回 6月20日 9:00～12:00

第3回 9月5日 9:00～12:00、第4回 10月17日 9:00～12:00

対象 児童と保護者、学校職員、地区子供会連合会、体育指導委員、地区健康推進員、地域住民他

内容 第1回:ビッグボールドッジボール、第2回:鬼怒川ウオーク

第3回:ビッグドッジビー、第4回親子ニチレクボール

◆参加者数

延べ362名(第1回216名、第2回61名、第3回64名、第4回21名)

◆活動の様子



◆評価

2年目の「子どもおもしろ広場」のイベントの参加率は、子ども及び保護者をはじめとした地域の大人にも周知が進み、多くの方により交流をすることができた。加えて学校教員とも学校生活以外でお互いの楽しむ姿を見られた事は子ども一人一人の理解に大きく役立ったことでもある。参加した全ての方々がお互い有意義な時間をもてた。

実践プロジェクト④

体カテスト：友遊子どもトライゾーン2009(2回)

◆プロジェクトのねらい

クラブ独自で考案した種目により子どもたちの体力の現状把握と本事業による体力向上の効果の検証するとともに、子どもたちの体力に関する意識の高揚を喚起しスポーツライフの定着を図る。

◆実施概要

日時 第1回:6月10日(水) 17:00～18:30、第2回:12月16日(水) 17:00～18:30

内容 三段かえる跳び(マットの上を足を揃えて連続3回前に跳びその距離を測る)

メディシンボール投げ(1kgのボールを開脚した状態から両下手投げで投げその距離を測る)

ジグザグタッチ走(全長32mの4角形を8の字を書くように走りその時間を計る)

◆参加者数

延べ160名(第1回90名、第2回70名)

◆活動の様子



◆評価

既存の体カテストとの類似を避け、「走」「跳」「投」のオリジナル種目で体力測定を実施した。子どもたちの生き生きと参加している姿を見て大変興味を示し積極的に参加していると思われた。同時にこのテストの実施方法が子どもたちに浸透していることが伺われた。実施種目は子どもにとって興味深いもので今後も継続し、スポーツに対する意識の高揚につなげていきたい。

◆プロジェクトのねらい

テーマ「スポーツ好きな子どもを育成するための地域と学校が連携した取り組み」について、広域スポーツセンター(評価委員会)がコーディネーターとなり、それぞれの立場の方々に今年度の事業を振り返ってもらい、今後のクラブ事業の充実と発展につなげるための意見交換をおこなう。

◆実施概要

日時 第1回:10月26日 19:30~20:15、第2回:10月27日 18:30~19:15

第3回:10月27日 19:30~20:15、第4回:11月16日 20:00~20:45

対象 スポーツ指導員①(ソフトテニス・フットサル・バドミントン)、スポーツ指導員②(ソフトバレーボール・ミニバスケットボール・ラージボール卓球)、小学校教員、プロジェクト委員(大学准教授・小学校副校長・体育指導委員・クラブ関係者等)

内容:「スポーツ好きな子どもを育成するための地域と学校が連携した取り組み」について

◆参加者数 延べ28人(実践評価委員、各スポーツ指導者、プロジェクト委員、小学校職員)

◆活動の様子



◆評価

お互いに補完し合い進めていく総合型地域スポーツクラブと学校体育の結びつきの重要性、10年後をも見据えたクラブづくりの課題、地域の中でフォーマルな仕組みとしてのクラブの生き残り方策など、その立場や役割に立たされた参加者より大変貴重な話題や解決策が論じられた。子どもの体力の低下を考えた時、子どもたちが「あと一歩踏み出してスポーツを楽しめる場所へ」とびこめるよう地域の大人たちは考えていかなければならないと締めくくった。

◆プロジェクトのねらい

今年度設定した課題解決のために、スポーツ指導員及び学校職員にクラブの事業目的を説明し、理解を深めてもらうとともに、三者が連携・協力の絆を強め子どもたちにもクラブにも更には地域にも有意義な活動を展開できる手だてを模索する。

◆実施概要

日時 5月21日(木) 19:00~21:00スポーツ指導員との連絡会議

6月18日(木) 18:00~19:30、12月4日(金) 18:00~19:30 学校職員との連絡会議

内容 「子どものスポーツ活動の充実」のテーマのもと、クラブとスポーツ指導員・学校職員とが連絡会議を実施し、年間の事業についてお互いの共通理解を図る。

◆参加者数 延べ61人(学校職員・スポーツ指導員)

◆活動の様子



◆評価

スポーツ教室の善し悪しを見るものではなく、いかに子どもたちがスポーツを好きになり1人でも多くの子どもがスポーツ体験をするか、その手だてが工夫されたものであるかを考えた会議であった。また、学校職員間では開かれた学校づくりを目指してきた本校にとって、もっとクラブを知ってもらい、そしてそれを開かれた学校の実現に結びつけていきたいと考える先生方の思いが伝わってきた。スポーツの好きな子どもたちが増え、結果的に子どもたちの体力が向上し、人間関係・基本的な生活習慣・地域の活性化が出来ればいいという意見でまとまった連絡会議であった。

その他の取組

- ◆ 子どもスポーツスクールパンフ作成
- ◆ 啓発リーフレットの作成・配布
- ◆ 小学校教員への説明会(1回)
- ◆ 「スポーツ活動についてのアンケート」(2回)



小学校教員への説明会



啓発リーフレット

本事業の成果

昨年度から2年間にわたり、本事業を受託し、宇都宮市の「友遊いずみクラブ」において取り組みを継続してきたが、この背後には、「子どもの体力向上」への願いが大きなねらいであることは言うまでもない。今年度実施された「子どもスポーツスクール」は延べ200回近くに達し、参加者数も延べ8000人を超えた。これだけの数のスポーツ活動の機会を提供し、子どもたちにスポーツを親しむ環境を提供し続けてきたことは高く評価できる。体力向上への取り組みには「環境づくり」が重要な役割を果たすことは言うまでもないが、その成果は、単に運動やスポーツの機会を増やしたとか、参加人数が確保できたとか、体力テストの記録の成績が上がったとか、そういった量的な数値のみで判断されるものではなく、生き生きと豊かに暮らしていくことを目指す取り組みだということが証明できた。

本事業の課題と今後の取組

体力の問題は子どもたちが今及び将来をより良く生きていくという生活全体の環境づくりに深く関わる課題であることが理解できたとともに、友遊いずみクラブの取り組みにおいて、先にあげた数的な実績にも増して高く評価できる点は、この様な子どもにとっての豊かな生活環境づくりをクラブや地域の指導者等が強く意識されているということである。目先の成果だけではなく、「今、目の前にいる子どもたちに、生涯にわたり健康に豊かに生きていって欲しい」、「そのための地域づくりの一端を担っていく」といった、長期的な視点の「ねがい」が地域づくりには必要であるということ。また、今年度も一層協力的にかかわってくださった泉が丘小学校の先生方、プロジェクト委員の方々全ての方々の願いが籠もった事業だったと言える。

友遊いずみクラブの2年間の取り組みは、地域における新たなスポーツ機会の創造・子どものスポーツ活動の充実として確かなものであった。今後も「子どもスポーツスクール」の継続に強い意欲をもつこと、この事業で芽生えた学校との連携・協力をさらに深めること、子どもから大人までが集う憩いのスペースであることを今後の継続課題として友遊いずみクラブが、これからも地域の豊かな地域づくりの核として、更に多くの人々をまき込みながら発展していくことを期待する。

(本件問合せ先:とちぎ広域スポーツセンター:028-623-3416)

§ こんな活動からもたくさんの笑顔をもらいました……!!



体力テストの様子



フットサルの参加児童



☆クラブの挑戦☆

とちぎTV「パワフルジャンプ」という番組(子どもの長縄挑戦)に参加。子どもスポーツスクールのソフトバレーに参加している5・6年女子を中心とし、バドミントンの指導者が縄の回し手となり、多くの応援者も駆けつけました。